

令和2年度以降使用小学校教科用図書の採択結果等について

井手町教育委員会

1 採択結果

教科・種目名	採択した発行者名
国語	光村図書出版
国語（書写）	東京書籍
社会	日本文教出版
社会（地図）	帝国書院
算数	啓林館
理科	啓林館
生活	啓林館
音楽	教育芸術社
図画工作	日本文教出版
家庭	開隆堂出版
保健	東京書籍
英語	東京書籍
特別の教科 道徳	学校図書

2 採択意見（担当より、山城教科用図書採択地区協議会の内容を説明後、審議）

■国語

○光村図書は、見開きページで学習の過程が段階を追って示されており、学習方法のイメージを子どもも教師も持ちやすく、使いやすい教科書になっている。

○扱われている題材についても普遍的で、是非、読ませたいような内容のものが多い。

■国語（書写）

○正しく整えて文字を書くために、東京書籍の「書写のカギ」はよい工夫だ。

○子どもたちが、「見つけよう」で「書写のかぎ」を見つけ、「たしかめよう」で実際に書いて確認し、「生かそう」で見つけた「書写のかぎ」を他の文字にどう生かすのか考えさせるので、子どもたちの書写の知識や技術の定着に役立つと思う。

■社会

○「主体的・対話的で深い学び」といった点では、特にそれぞれの教科的な「見方・考え方」が必要であると言われているが、日本文教出版は、單元ごとに「見方・考え方」のコーナーが設けられており、子どもたちがそれを基に、「空間」「時間」「関係」の3つの視点で物事を見たり、考えたりすることができるように工夫されている。

■社会（地図）

- 帝国書院は、全体的に明るく、必要な部分が大きく見やすく表記されているので分かりやすい。特に初めて地図を見る子どもたちには扱いやすいのではないかと。
- 帝国書院の紙の素材は書き込みやすいと思う。3年生から配布するというので、160万分の1の地図は、詳しくすぎない地図として全体を見渡せ、適切である。

■算数

- 算数は段階を追って抽象的になり、中・高学年から段々と苦手になり、差が広がっていく教科であると思う。啓林館はテープ図や数直線図に加えて、文章の中に出てきた数値の関係を自分で図式化する関係図の書き方を身に付けさせる手立てが示されており、問題の意味を理解しながら計算できるようになるので適切である。

■理科

- 啓林館の教科書は、学習の過程が見え、流れがわかるように示されている。また、安全に実験ができる配慮もされており、楽しく学べる工夫がされていると感じた。
- 井手町ではタブレットを入れていただいているので、QRコードを読み取ることによって、動画で実験内容や絵では分かりにくい現象を確認でき、授業も安全に進められる。
- 啓林館の教科書は、単元ごとにまとめができるページが設けられており使いやすい。

■生活

- 啓林館は、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という3つの言葉で示されているように、子どもたちが活動に意欲を持って学習に取り組める。さらに、それがパターン化されていることで、子どもたちにとって非常に分かりやすく、学習に期待感を持てるようになっている。
- 子どもたち自身の活動の写真が大きく掲載されており、子どもたちの興味を惹く工夫となっている。

■音楽

- 教育芸術社は、大変見やすいと思う。
- 伝統芸能の歌舞伎や雅楽なども取りあげられておりよいと思う。教育芸術社は、楽譜だけでなく、関係する図やワークシートも適切に取り入れられており扱いやすい。

■図画工作

- 日本文教出版は、子どもたちの製作過程の写真や意欲を引き出すような写真がたくさん掲載されている。
- 実際にどのような道具をどのように使うのかという説明が丁寧に行われている日本文教出版がよい。

■家庭

- 開隆堂は、学習の始まりのページがイラストや写真になっているので、子どもたちが何をするのか分かりやすく、気を付けないといけないことも分かりやすくなっているため、意見の交流もしやすく、興味を持って学習できると思う。
- QRコードを使って「ここだけが知りたい」ということが確認できることはよい。実際に動画へアクセスしてみたが、QRコードはストレスなく動画が見られ、道具の使い方についても、左利き、右利きの写真も載っており、自己流ではなく、安全で適切な使い方を学べる。

■保健

- 東京書籍は、単元の冒頭に「ステップ1 気づく・見つける」「ステップ2 調べる・解決する」「ステップ3 深める・伝える」「ステップ4 まとめる・生かす」と載っており、どの単元も同じパターンで進めることができるので、子どもたちが学習しやすく、見通しも持ちやすい。
- 今日的な健康課題についての資料が豊富である。
- 書き込み欄がワークシートのように活用でき、導入部分で気づいたこと、展開部分でみんなで考えたこと、まとめでの振り返りなどを、子どもたち自身に書き込ませることができ、主体的・対話的な学習が進められると思う。

■英語

- 学習内容をあまり詰め込みすぎて量が多くなると取っ付きにくいと思う。その点、東京書籍は適量である。
- 教科書はもちろん、別冊にもQRコードが付いており、ネイティブの英語が聞けるので適切である。

■特別の教科 道徳

- 学校図書は分冊が用意されていて、教科書に沿って進めることも、もっと発展させた進め方もでき、先生方の考えを活かし、いろいろな工夫ができる教科書である。
- ノートの記事も項目ごとに書き込むので、同じような項目が出てきた時に、以前の考えと見比べることができ、自分自身の成長を感じることができるので、学校図書がよい。